

未来大賞

長岩佳子

「ドアノブのないドアの向こうへ～『相談の力』を信じて～」

<要旨>

私は結婚を機に上京し、3人の子どもの子育てを経験した。妻でもなく母でもない「個」としてどう生きたいのか自問することもあったが、答えが見つからないまま、「専業主婦」という立場を20年以上続けた。母の言葉をきっかけに、50歳を過ぎて産業カウンセラー資格の取得を目指すことを決意。「専業主婦ワークショップ」の企画運営は、私が自分の人生に真摯に向き合うきっかけとなった。その後、「キャリアのドアにドアノブはない」という言葉に導かれるように、不登校生徒と外国ルーツの生徒たちに対応する中学校の支援員、都のひとり親支援機関での電話相談員を経て、現在自治体の男女共同参画センターの相談員として働いている。相談の場に身を置くことで、私自身も成長の機会をいただいていると思っている。本レポートは、私が「個」として生きる人生を見失っている状態から、アイデンティティーの再構築をしていく過程を綴ったものである。